

ちょっと読んでみませんか（令和七年春季彼岸）

第76話『真剣と深刻』しんけん しんこく 本源寺住職 本間健司

昨年十月に住職を継承させて頂き半年程が経ちました。従来の仕事に加えて、住職としての役割を忙しいながらもやりがいを感じながら務めさせていただいております。何か気付いたことや要望などがありましたら、ご遠慮なくお伝え下されば幸いです。

私事ではありますが、先月少し体調を崩してしまい、発熱などは無いものの徐々に声が枯れ始め、遂には全く発声が出来なくなってしまったのです。

以前にも同様の状態になった事はあるのですが、今回は治りが悪く、少し焦りを感じながら療養する日が続きました。やはり声が出ないというのは、僧侶にとって大変なことなのです…。

しかし、療養中というのは決して悪いことばかりではありませんでした。

健康な日常ではなかなか向き合えないことについてゆっくり考える時間を作ることができ、住職を継承させて頂いてからの半年間を振り返ったり、これからのことについて今一度想いを巡らせたりと、とても有意義な時間になっていることを実感していました。

体調もずいぶん良くなり、少し遠方まで用事を済ませに車で出かけた時、まさかまさか、次なる“災難”が待ち構えていたのです。信号待ちで停車していた私の車の後ろに、後続の二トントラックが遅い速度ながら衝突したのです。

せっかく体調が良くなってホッとしたところに起きた一大事に、私は頭が混乱し、降りてきた相手方の運転手に対してイライラをぶつけそうになっていました。

気持ちを落ち着けるためにいったん目を閉じ深呼吸をしていた時に思い出したのが、今回の表題である『真剣と深刻』という言葉だったのです。

人間学を学ぶ月刊誌『致知（ちち）』のなかで、ある学者さんが話されていたことなのですが、とても印象深く私の心に残っていました。次のような内容です。

「真剣」と「深刻」は、同じようで全く違うんですよ。「真剣」に取り組めば自然と解決できることなのに、「深刻」になって取り組んでしまうから、かえって問題が深くなったり、次の問題を引き起こしてしまうということがよくあるのです。

「真剣」とは、物事があるがまま冷静に受け止め、良い方向に進むことを信じながら、前向きに対処していくこと。

それに対して、「深刻」というのは、物事を事実以上に悲観的に受け止め、不安や恐怖によって自分自身をがんにがらめにしてしまうことなのです。

この言葉を思い出した私は、複雑な感情はいったん横に置いておいて、相手方や警察官との話し合い・レッカー車の手配・保険会社との連絡等を順にこなしていきましました。そして冷静になっていけばいくほど、その事故によって双方の身体が全く無事であったことにあらためて感謝の想いが沸き上がってきたのです。

よく檀信徒さんの御祈願する際に「大難は小難に、小難は無難に」と言上しますが、まさに自分自身の「大難を小難に」守って頂いたということを実感していました。

さきの体調不良も今回の事故も、もし必要以上に「深刻」になっていたなら、大切なことに気付かず、ただただ不幸な出来事になっていたかも知れませぬね。

さて、日蓮聖人は『法華経』・御題目を世間に弘め世の中を良くするという大いなる「使命」のために、身を投げ打って布教活動に邁進されていましたが、他の宗教者や権力者から批判され恨まれ、なんとか一命は取り留めたものの、極寒の流刑地である佐渡へと流されてしまいました。

大聖人も一人の人間ですから、苦難が続くにつれて自らの信仰への疑いが大きくなっていったことを、文書のなかで告白しています。しかし経典を熟読しながら自らを省みること繰り返し、ついに大きな覚悟へと辿り着いたのです。

我^{われ}並びに我^わが弟子^{しよなん}、諸難^{しよなん}ありとも疑^う心^{こころ}なくわ、自然^{じねん}に仏界^{ぶつかい}にいたるべし。

天^{かこ}の加護^{かこ}なき事を疑^うわされ。現世^{げんぜ}の安穩^{あんのん}ならざるを事をなげかざれ。

(『開目抄(かいもくしょう)』 大聖人五十一歳)

(現代語訳)

私自身よ、そして弟子たちよ。様々な苦難があつたとしても、自らの信仰を疑わないで実践を続けるならば、自然と仏様の世界へと行くことが出来るのです。

いま目の前に諸天善神の守護がないからといって信仰を疑ってはなりません！この世での現実的な御利益が無いといって嘆いてはなりません！

目の前の「諸難」と感じることも、もつと長く深い視点から観れば、それも仏様の慈悲導きであり、本当の意味で「天の加護」、永遠不滅の「安穩」への道程なのだ、と悟られたのだと思います。

この真理を悟られてからの大聖人は、きっと『深刻』さが消え、更に堅固になった信仰心を携え、前向きに意気揚々と布教に取り組まれたことでしょう。そんな堂々としたお姿が目に見えます。

今年も、年が明けてから様々な災害や出来事が続き、なんとなく重い空気が漂っているような気がします。

しかし、今年の干支は「乙巳(きのとみ)」、「脱皮」と「再生」の年と言われます。

人生に困難は付きものですが、あまり「深刻」にはならず、明るく前向きな『真剣』な心で、共に乗り越え「脱皮―再生」を目指していきましょう！

天のご加護、仏様の慈悲導きを深く信じながら：

合掌 南無妙法蓮華經